

# 名古屋市感染症発生動向調査情報

2019年(平成31年)第2週(2019年1月7日～1月13日)

名古屋市感染症情報センター（名古屋市衛生研究所疫学情報部）2019年1月16日作成

<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-3-0-0-0-0-0-0.html>

## ◆本市の状況

### 〔トピックス：インフルエンザ〕

- 本市における第2週（1月7日～1月13日）のインフルエンザの定点当たり患者報告数は51.66人/定点で、1週あたりの患者報告数が統計を取り始めた1999年以降で最多となっています。
- 愛知県内では2018年12月27日より警報の指標である定点当たり患者報告数「30」を上回る地域があったことから、インフルエンザ警報が発令されています。
- 名古屋市および愛知県の定点当たり患者報告数は全国を上回っています。
- インフルエンザウイルスのうち、近年、国内で流行しているのは、AH1pdm09亜型（2009年に流行したインフルエンザ）、AH3亜型（いわゆる香港型）、B型（ビクトリア系統、山形系統）です。2018/19シーズンはこれまでにAH1pdm09亜型が全国的に多く検出されています。
- インフルエンザは例年1月から2月にかけて流行のピークを迎えます。小児や高齢者、免疫力の低下している方では重症化する場合があるので注意が必要です。

### 〔麻しん〕

- 本市における第2週（1月7日～1月13日）の麻しんの患者報告数は2人で、累計患者報告数は2人となっています。
- 麻しんは空気感染をし、その感染力は非常に強いと言われており、感染期間は発症1日前から解熱後3日後とされています。
- 麻しんの治療は、特異的な根治療法がなく対症療法を行います。
- 予防はワクチン接種で、MRワクチンの定期予防接種が1歳（第1期）と小学校入学前年度（第2期）に行われています。

〔定点把握感染症の発生動向〕

- インフルエンザの定点当たり患者報告数は、前週の26.2人から51.7人に増加した。過去3年の同一週の平均との比較では、3.9倍多い報告数になった。
- 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、前週の1.7人から4.2人に増加した。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、前週の0.3人から0.8人に増加した。
- 水痘の定点当たり患者報告数は、前週の0.3人から0.4人になった。
- 咽頭結膜熱の定点当たり患者報告数は、前週の0.1人から0.2人に増加した。
- 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は、前週の0.1人から0.2人に増加した。
- 伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は、前週の0.1人から0.3人に増加した。

〔1類～5類全数把握感染症の届出〕

診断週	感染症の分類	疾患	発生数	発生の概要
2019年 第2週	2類	結核	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 男性、93歳、結核性胸膜炎</li> <li>• 男性、60歳、結核性胸膜炎</li> <li>• 女性、88歳、肺結核</li> <li>• 女性、36歳、肺結核</li> <li>• 女性、24歳、肺結核</li> <li>• 男性、75歳、肺結核及びリンパ節結核</li> <li>• 男性、78歳、感染症死亡者の死体、肺結核及び結核性胸膜炎</li> <li>• 男性、4歳、無症状病原体保有者</li> <li>• 女性、1歳、無症状病原体保有者</li> </ul>
2019年 第2週	3類	腸管出血性大腸菌感染症	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 女性、21歳、O26、VT1、感染地域：愛知県</li> <li>• 女性、27歳、無症状病原体保有者、O血清群不明、VT1・VT2、感染地域：愛知県</li> </ul>
2019年 第2週	5類	侵襲性肺炎球菌感染症	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 女性、81歳、菌検出検体：血液</li> <li>• 男性、66歳、菌検出検体：髄液・血液</li> <li>• 女性、80歳、菌検出検体：血液</li> </ul>

2019年 第2週	5類	梅毒	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>男性、45歳、早期顕症梅毒（1期）</li> <li>女性、25歳、早期顕症梅毒（2期）</li> <li>女性、26歳、無症状病原体保有者</li> <li>女性、26歳、無症状病原体保有者</li> </ul>
2019年 第2週	5類	百日咳	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>男性、3歳、検査方法：抗体の検出、感染地域：名古屋市</li> <li>女性、8歳、検査方法：抗体の検出、感染地域：名古屋市</li> <li>女性、45歳、検査方法：抗体の検出、感染地域：国内（都道府県不明）</li> <li>女性、17歳、検査方法：抗体の検出、感染地域：名古屋市</li> <li>男性、14歳、検査方法：検体からの病原体遺伝子の検出、感染地域：名古屋市</li> <li>女性、27歳、検査方法：抗体の検出、感染地域：名古屋市</li> <li>男性、0歳、検査方法：検体からの病原体遺伝子の検出、感染地域：愛知県</li> </ul>
2019年 第2週	5類	麻疹	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>男性、21歳、検査診断例、感染地域：三重県</li> <li>女性、7歳、検査診断例、感染地域：不明</li> </ul>

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

報告日が遅れたため先週号までに掲載されなかった1類から5類全数報告感染症。

診断週	感染症の分類	疾患	発生数	発生の概要
2019年 第1週	5類	急性脳炎	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>男性、4歳、インフルエンザウイルスA</li> </ul>
2019年 第1週	5類	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>男性、95歳、菌検出検体：血液</li> </ul>
2018年 第51週	4類	エキノコックス症	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>男性、35歳、単包条虫、感染地域：中華人民共和国</li> </ul>

2018年 第21週	5類	梅毒	1	• 男性、41歳、早期顕症梅毒（1期）
---------------	----	----	---	---------------------

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

〔2019年1類～5類全数把握感染症の届出報告数の累計〕

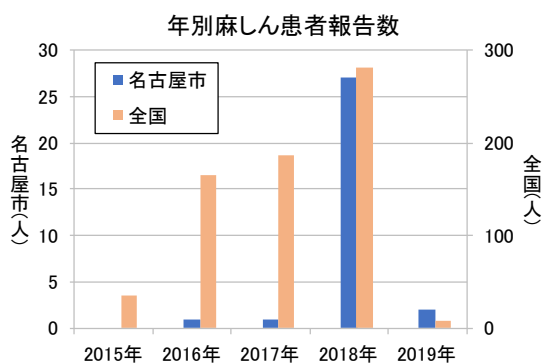
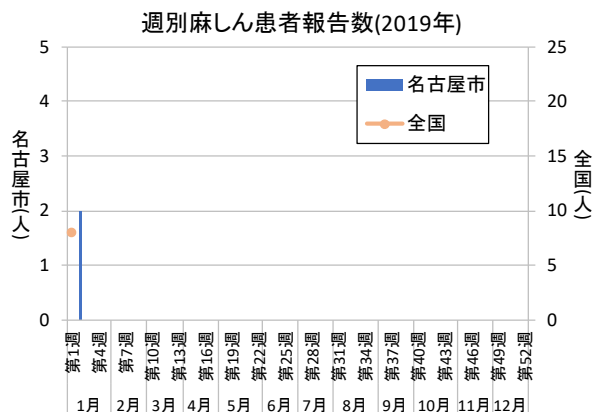
感染症の分類	疾患	累計
1類感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、他	0
2類感染症	急性灰白髄炎	0
2類感染症	結核（潜在性結核感染症を含む）	12(2)[0][0] 【1】
2類感染症	ジフテリア	0
2類感染症	重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）	0
2類感染症	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る）	0
2類感染症	鳥インフルエンザ（H5N1）	0
2類感染症	鳥インフルエンザ（H7N9）	0
3類感染症	コレラ	0
3類感染症	細菌性赤痢	0
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2（1）
3類感染症	腸チフス	0
3類感染症	パラチフス	0
4類感染症	レジオネラ症	1
5類感染症	アメーバ赤痢	1
5類感染症	急性脳炎	1
5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1
5類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1
5類感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	1
5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	5
5類感染症	梅毒	5（2）
5類感染症	百日咳	7
5類感染症	風しん	1
5類感染症	麻疹	2

累計は2019年第1週からの診断週による累計、( )内は無症状病原体保有者累計数を再掲、[ ]内は疑似症累計数を再掲、【 】内は感染症死亡者の死体累計数を再掲、〔 〕内は感染症死亡疑い者の死体累計数を再掲、〈 〉内は後天性免疫不全症候群の「その他」累計数を再掲。

対象疾患が多いため、4類及び5類感染症は報告のあった疾患のみを掲載。

(報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

〔名古屋市の麻しん報告数：2019年1月16日作成〕



週別麻しん患者報告数(2019年)

名古屋市	第2週 (1/7~ 1/13)	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週	第12週	合計(人)
		2										

※第2週(1月13日)まで 表は患者報告のあった週のみ掲載

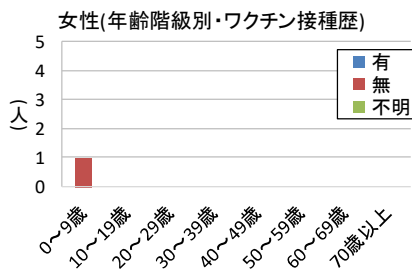
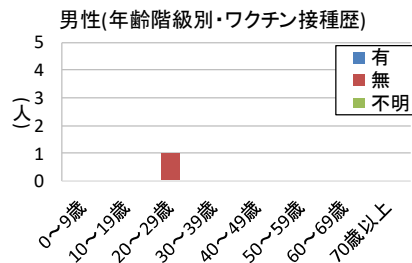
年別麻しん患者報告数

麻しん	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
名古屋市	75	11	6	19	5	1	20	0	1	1	27	2※1
愛知県	197	29	32	32	39	25	46	0	5	1	37	5※2
全国	11013	732	447	439	283	229	462	35	165	186	282	8※3

※1:第2週(1月13日)まで ※2:1月15日時点 ※3:第1週(1月6日)まで

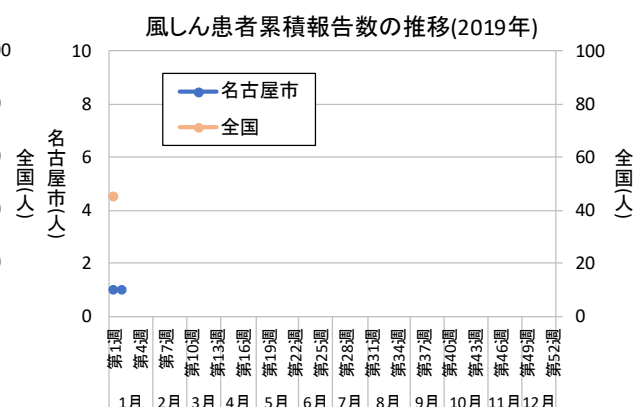
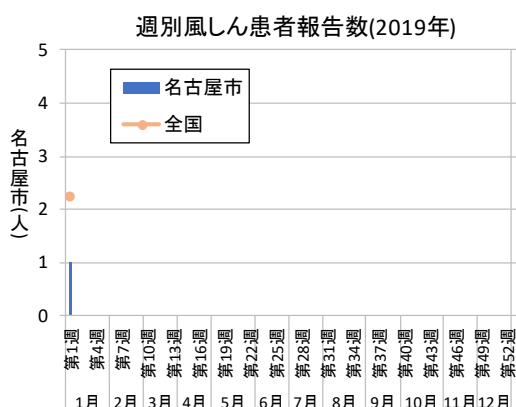
麻しん患者の性別・年齢群別・ワクチン接種歴(2019年名古屋市)

	年齢群	ワクチン接種歴			総計(人)
		有	無	不明	
男性	0~9歳				0
	10~19歳				0
	20~29歳		1		1
	30~39歳				0
	40~49歳				0
	50~59歳				0
	60~69歳				0
	70歳以上				0
	計(人)	0	1	0	1
女性	0~9歳		1		1
	10~19歳				0
	20~29歳				0
	30~39歳				0
	40~49歳				0
	50~59歳				0
	60~69歳				0
	70歳以上				0
	計(人)	0	1	0	1
総計(人)		0	2	0	2



報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

〔名古屋市の風しん報告数：2019年1月16日作成〕



週別風しん患者報告数(2019年)

名古屋市	第1週 (12/31~ 1/6)	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週	第12週	合計(人)
		1											

※第2週(1月13日)まで 表は患者報告のあった週のみ掲載

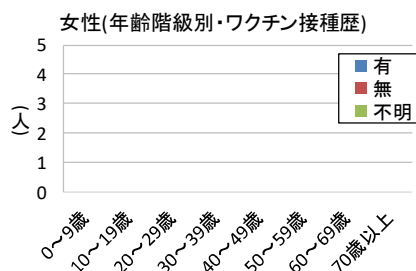
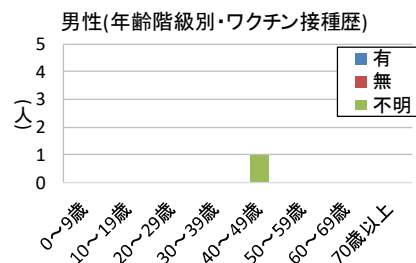
年別風しん患者報告数

風しん	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
名古屋市	1	1	0	7	38	191	7	2	4	0	58	1※1
愛知県	3	10	3	13	97	375	22	13	20	3	119	2※2
全国	303	147	87	378	2386	14344	319	163	126	93	2917	45※3

※1: 第2週(1月13日)まで ※2: 1月15日時点 ※3: 第1週(1月6日)まで

風しん患者の性別・年齢階級別・ワクチン接種歴(2019年名古屋市)

	年齢階級	ワクチン接種歴			総計(人)
		有	無	不明	
男性	0~9歳				0
	10~19歳				0
	20~29歳				0
	30~39歳				0
	40~49歳			1	1
	50~59歳				0
	60~69歳				0
	70歳以上				0
	計(人)	0	0	1	1
女性	0~9歳				0
	10~19歳				0
	20~29歳				0
	30~39歳				0
	40~49歳				0
	50~59歳				0
	60~69歳				0
	70歳以上				0
	計(人)	0	0	0	0
総計(人)		0	0	1	1



報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

〔愛知県麻疹・風しん患者調査事業について〕

平成 20 年 1 月 1 日から、麻疹・風しんは全数把握対象疾患となりましたが、愛知県内では、感染症法に基づく届出では把握できない情報を得るため、医師会と協力して「愛知県麻疹・風しん患者調査事業」を実施しており、名古屋市も参加しています。調査結果については下記のリンク先（愛知県衛生研究所ホームページの中のコンテンツ <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl.html>）をご覧ください。

〔定点医療機関からの情報〕

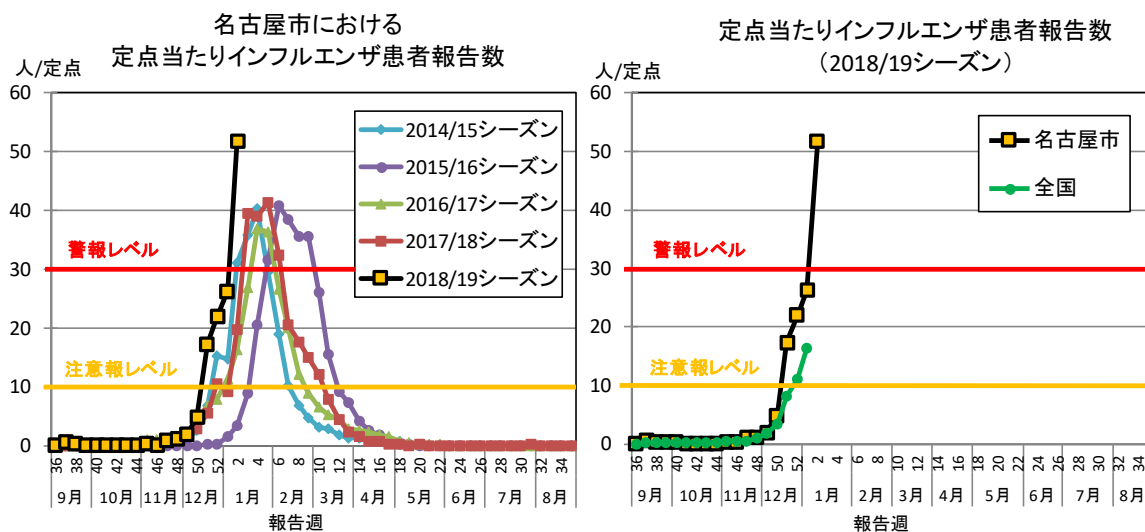
インフルエンザ A 型 19 名	定点医療機関（千種区）
インフルエンザ A 型 51 名	定点医療機関（千種区）
インフルエンザ A 型 44 名	定点医療機関（千種区）
インフルエンザ A 型 46 名	定点医療機関（千種区）
インフルエンザ A 34 名	定点医療機関（東区）
10 名全てインフルエンザ A 型	定点医療機関（北区）
インフルエンザ A 型のみ：33 名	定点医療機関（西区）
インフルエンザ A 型 134 名、B 型 1 名、臨床診断 3 名	定点医療機関（中村区）
インフルエンザ A 型 65 名、A 型 B 型両方 1 名	定点医療機関（中村区）
インフルエンザ A 型 42 名	定点医療機関（中村区）



インフルエンザA型25名	定点医療機関（中村区）
すべてインフルエンザA型	定点医療機関（中区）
すべてインフルエンザA型	定点医療機関（中区）
全てインフルエンザA型	定点医療機関（中区）
全てインフルエンザA型	定点医療機関（中区）
インフルエンザA型：27名	定点医療機関（昭和区）
インフルエンザA型：40名、臨床診断例：3名	定点医療機関（昭和区）
インフルエンザA型：49名	定点医療機関（昭和区）
インフルエンザA型：36名	定点医療機関（昭和区）
インフルエンザA型：50名、臨床診断例：3名	定点医療機関（昭和区）
インフルエンザA型 20名	定点医療機関（瑞穂区）
インフルエンザA型：30名	定点医療機関（熱田区）
インフルエンザA型：10名	定点医療機関（熱田区）
インフルエンザA型19名	定点医療機関（港区）
インフルエンザA型48名	定点医療機関（港区）
インフルエンザは、すべてA型です。男性269名 女性207名	定点医療機関（南区）

インフルエンザは、すべてA型です。男性 13 名 女性 25 名	定点医療機関（南区）
インフルエンザは、すべてA型です。男性 36 名 女性 24 名	定点医療機関（南区）
インフルエンザA型 43名@臨床診断 2名	定点医療機関（守山区）
インフルエンザA型：53人、B型：1人、その他：3人	定点医療機関（緑区）
インフルエンザA型	定点医療機関（緑区）
インフルエンザA型	定点医療機関（緑区）
インフルエンザA型	定点医療機関（緑区）
すべてインフルエンザA型でした	定点医療機関（名東区）
すべてインフルエンザA型でした	定点医療機関（名東区）
インフルエンザA型22名・インフルエンザB型1名（職場で）	定点医療機関（天白区）

〔名古屋市のインフルエンザ患者報告数の推移：2019年1月16日作成〕



※名古屋市は2019年第2週、全国は2019年第1週までの報告数

### 定点当たり患者報告数(2018/19シーズン)

	第47週 (11/19～ 11/25)	第48週 (11/26～ 12/2)	第49週 (12/3～ 12/9)	第50週 (12/10～ 12/16)	第51週 (12/17～ 12/23)	第52週 (12/24～ 12/30)	第1週 (12/31～ 1/6)	第2週 (1/7～ 1/13)
名古屋市	1.00	1.16	2.04	4.86	17.34	22.00	26.23	51.66
愛知県	0.73	1.41	3.43	8.41	23.64	30.45	46.42	—
全国	0.52	0.93	1.70	3.35	8.05	11.17	16.30	—

※「1」を超えると流行入り、「10」を超えると注意報、「30」を超えると警報の基準

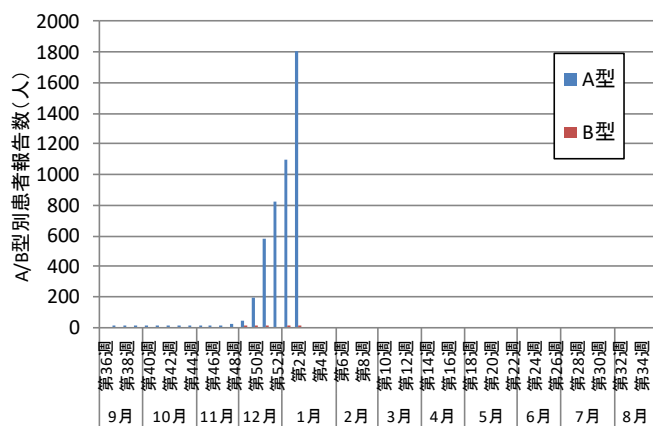
※愛知県内では、12月27日より「30」を上回る地域があったことから「インフルエンザ警報」が発令されています。

※報告数は各週公表時における速報値

### インフルエンザA/B型別流行状況

インフルエンザウイルス迅速診断キットによるインフルエンザA/B型別の検査結果が定点医療機関から報告されています。本市におけるインフルエンザA/B型別の患者情報を集計したところ、2019年第2週は、インフルエンザA型1803人、インフルエンザB型4人でした。2018/19シーズンの累計では、インフルエンザA型4657人、B型10人となっています。

### インフルエンザA/B型別患者報告数(2018/19シーズン) (定点医療機関からの情報による)



報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

◆2019年第2週 患者報告数（疾病区別）、定点あたり患者報告数（疾病区別）、年齢階層別患者報告数（疾病別）

患者報告数（名古屋市）

2019年第2週（2019年1月7日～1月13日）

疾患 \ 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計	前週比	過去比*
★インフルエンザ	216	134	229	166	328	102	208	161	140	253	269	638	323	137	154	158	3616	2.0	3.9
○RSウイルス感染症			3	6									1				10	0.8	0.4
○咽頭結膜熱	2	1	1	3						2		1	1		3		14	2.0	1.1
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	4	8	5	5	1			1	3	4	3	2	2	7	7	57	2.4	1.0
○感染性胃腸炎	28	10	41	16	16	14	23		1	22	60	12	12	10	17	14	296	2.4	1.1
○水痘	3	3	4	2	1					3		1	2		4	4	27	1.1	1.2
○手足口病																	0	0.0	0.0
○伝染性紅斑	4			1	1		1		1			3		1	6	2	20	2.2	1.5
○突発性発疹	3										1	1			2		7	3.5	0.3
○ヘルパンギーナ																	0		0.0
○流行性耳下腺炎										1							1	1.0	0.1
△急性出血性結膜炎																	0		
△流行性角結膜炎							1									1	2	2.0	0.4
△細菌性髄膜炎																	0		
◇無菌性髄膜炎																	0		
◇マイコプラズマ肺炎							2										2	2.0	0.3
◇クラミジア肺炎																	0		
◇感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）																	0	0.0	0.0
計	261	152	286	199	351	117	235	161	143	284	334	660	340	150	193	186	4052		

\*過去3年の同週の平均値との比

★インフルエンザ定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
○小児科定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
△眼科定点数	1		1	1	1		1	1	1			1		1	1	1	11		
◇基幹定点数			1				1			1							3		

★○△◇は定点種別を示す。

セルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

定点あたり患者報告数、および流行警報・注意報発生状況（名古屋市）

2019年第2週（2019年1月7日～1月13日）

疾患 \ 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	平均	
インフルエンザ	43.2	33.5	45.8	41.5	65.6	25.5	41.6	32.2	35.0	63.3	67.3	159.5	64.6	34.3	38.5	39.5	51.7	
RSウイルス感染症			0.6	1.5									0.3				0.1	
咽頭結膜熱	0.4	0.3	0.2	0.8						0.5			0.3	0.2	0.8		0.2	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.0	1.0	1.6	1.3	1.0	0.3			0.3	0.8	1.0	0.8	0.4	0.5	1.8	1.8	0.8	
感染性胃腸炎	5.6	2.5	8.2	4.0	3.2	3.5	4.6		0.3	5.5	15.0	3.0	2.4	2.5	4.3	3.5	4.2	
水痘	0.6	0.8	0.8	0.5	0.2					0.8			0.3	0.4	1.0	1.0	0.4	
手足口病																		
伝染性紅斑	0.8			0.3	0.2		0.2		0.3				0.8		0.3	1.5	0.5	0.3
突発性発疹	0.6											0.3	0.3		0.5		0.1	
ヘルパンギーナ																		
流行性耳下腺炎										0.3							0.0	
急性出血性結膜炎																		
流行性角結膜炎							1.0									1.0	0.2	

警報対象疾患	流行発生警報		流行発生注意報 基準値
	開始基準値	終息基準値	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

流行警報・注意報について

■太字の数字 は流行発生警報

■斜体の数字 は流行発生注意報

■警報及び注意報の発生は、厚生労働省の感染症発生動向調査における警報発生システムの基準値（左表）に準拠しています。なお基準値は、変更される場合や当センターの判断で、独自の設定に変更する場合があります。

■この警報及び注意報は、感染症発生動向調査に関わる専門家の対策立案を支援するためのものです。詳しい目的、利用法等については当情報センターにご連絡ください。

年齢階層別患者報告数(名古屋市)

2019年第2週(2019年1月7日~1月13日)

疾患 \ 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
インフルエンザ	25	45	178	154	142	168	151	133	121	105	105	342	163	343	348	354	265	196	158	120

疾患 / 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上
RSウイルス感染症	1	4	3	2										
咽頭結膜熱			4	4	5						1			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1	5	5	9	7	5	2	3	6	2	12	
感染性胃腸炎	5	20	38	24	24	15	14	11	7	7	6	24	11	90
水痘	1	1	2	1	1	2	4	3	3	5		3	1	
手足口病														
伝染性紅斑			1		1	1	6	5	3	1	2			
突発性発しん		2	4	1										
ヘルパンギーナ														
流行性耳下腺炎							1							

疾患 / 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上	
急性出血性結膜炎																				
流行性角結膜炎																		1		1

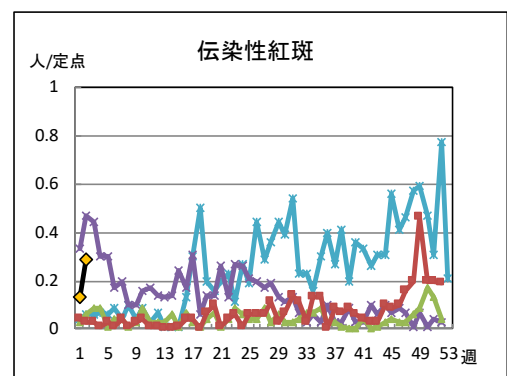
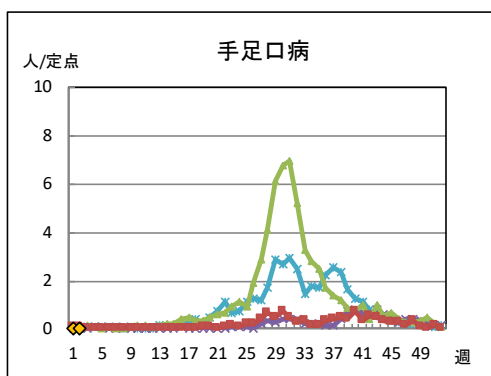
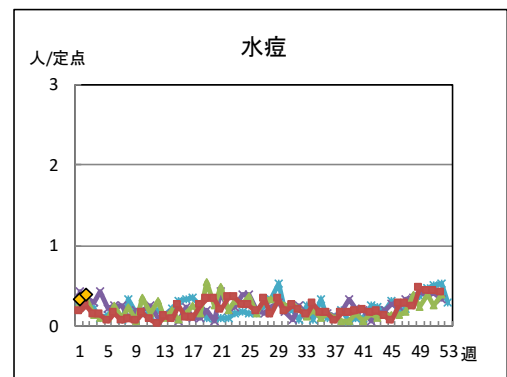
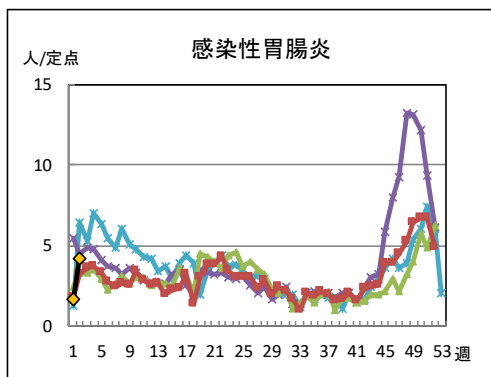
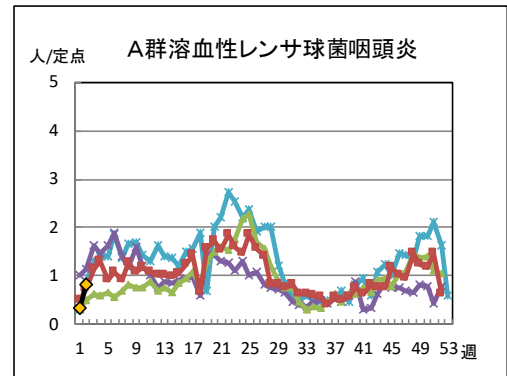
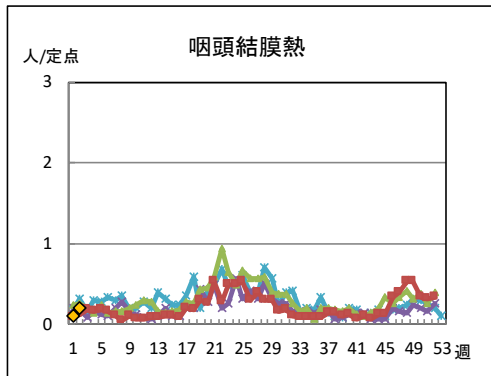
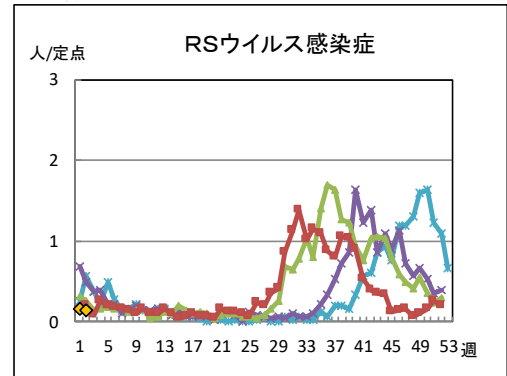
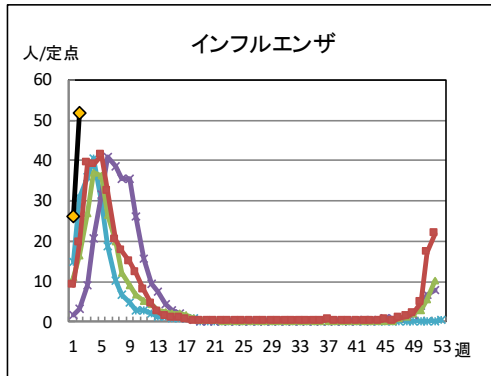
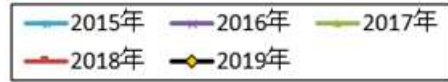
疾患 / 年齢階層	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上
細菌性髄膜炎																
無菌性髄膜炎																
マイコプラズマ肺炎			1	1												
クラミジア肺炎																
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)																

〔インフルエンザ入院サーベイランス結果(基幹定点3カ所)〕

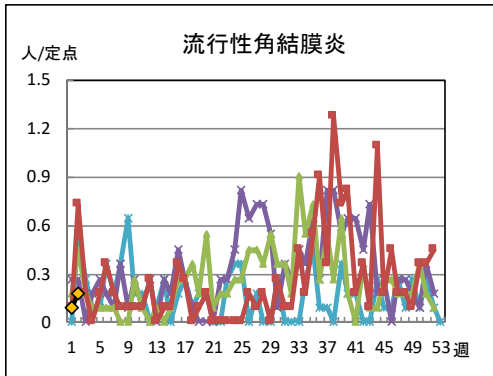
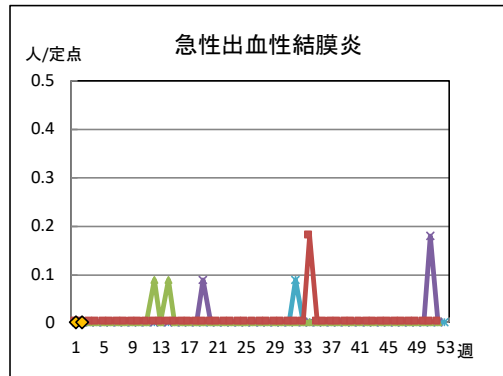
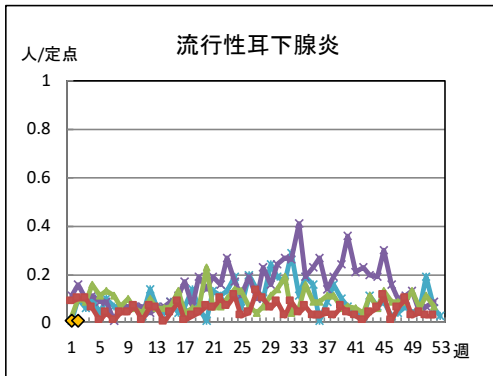
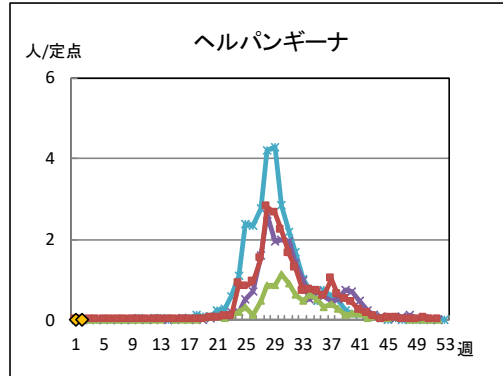
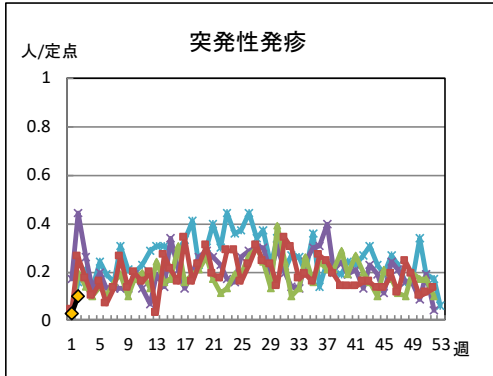
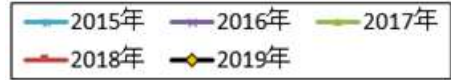
【2019年第2週:6件】 【2018/2019シーズン累計数:19件】

- 女性、75歳
- 女性、90歳
- 男性、84歳
- 男性、85歳
- 女性、84歳
- 男性、6歳

◆小児科・インフルエンザ・眼科定点医療機関からの  
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(1) 2019年第2週まで



◆小児科・インフルエンザ・眼科定点医療機関からの  
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(2) 2019年第2週まで



◆ 基幹病院定点月報の集計結果〔2018年12月分〕

基幹定点数：3（西部医療センター(北)、名古屋第二赤十字病院(昭和)、名古屋掖済会病院(中川)）

表1.基幹定点報告、別患者報告数(名古屋市)

2018年12月

疾患 / 区	北	昭和	中川	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3			3
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症				0
薬剤耐性緑膿菌感染症				0
計	3	0	0	3

表2.基幹定点報告、年齢階級別報告数(名古屋市)

2018年12月

疾患 / 年齢階級	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90歳-	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		1							2		3
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症											0
薬剤耐性緑膿菌感染症											0
計	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3

◆ 性感染症について〔性感染症定点把握、2018年12月分〕

性感染症定点数：15（泌尿器科系：8、産婦人科系：7）

報告された患者数を性別で見ると、男性では性器クラミジア感染症、淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマの順に多く、女性では性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、淋菌感染症、尖圭コンジローマの順に多く報告がありました。今月の性感染症の報告数は男性109人、女性は40人でした。（表2、図1参照）

2018年12月分を年齢階級別に見ると、男性の性器クラミジア感染症および性器ヘルペスウイルス感染症は15歳以上の全ての年齢階級で報告がありました。尖圭コンジローマは20歳から24歳、30歳から44歳および50歳以上の年齢階級で報告があり、淋菌感染症は15歳以上の全ての年齢階級で報告がありました。女性では性器クラミジア感染症は15歳から49歳の年齢階級で報告があり、性器ヘルペスウイルス感染症は15歳から39歳および45歳以上の年齢階級で報告がありました。尖圭コンジローマは20歳から24歳の年齢階級で報告があり、淋菌感染症は15歳から24歳および30歳から34歳の年齢階級で報告がありました。（表2、図2参照）

表1.性感染症別患者報告数(名古屋市)

2018年12月

疾患 / 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
性器クラミジア感染症	8		4	2	1	20	5			13	10			6	3	2	74
性器ヘルペスウイルス感染症					6	8	1	1		1	8	1					29
尖圭コンジローマ						1				6				1		2	10
淋菌感染症	2		1		1	13	4			14				1			36
計	10		5	2	8	42	10	1		34	18	1		8	3	7	149

STD定点数	1		2	1	1	2	1	1		1	1	1		1	1	1	15
--------	---	--	---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	--	---	---	---	----

のセルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

表2.性感染症年齢階級別患者報告数(名古屋市)

2018年12月

疾患 / 年齢階級	性別	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55歳-	計
性器クラミジア感染症	男性		1	11	17	7	2	6	1	4	3	52
	女性		1	9	6	2	2	1	1			22
性器ヘルペスウイルス感染症	男性		1	2	3	1	1	1	3	2	1	15
	女性		1	3	2	1	3		2	1	1	14
尖圭コンジローマ	男性			1		3	1	2		1	1	9
	女性			1								1
淋菌感染症	男性		1	7	14	2	3	1	3	1	1	33
	女性		1	1		1						3
計	男性		3	21	34	13	7	10	7	8	6	109
	女性		3	14	8	4	5	1	3	1	1	40



図1. STD各感染症が総報告数に占める割合(2018年12月)

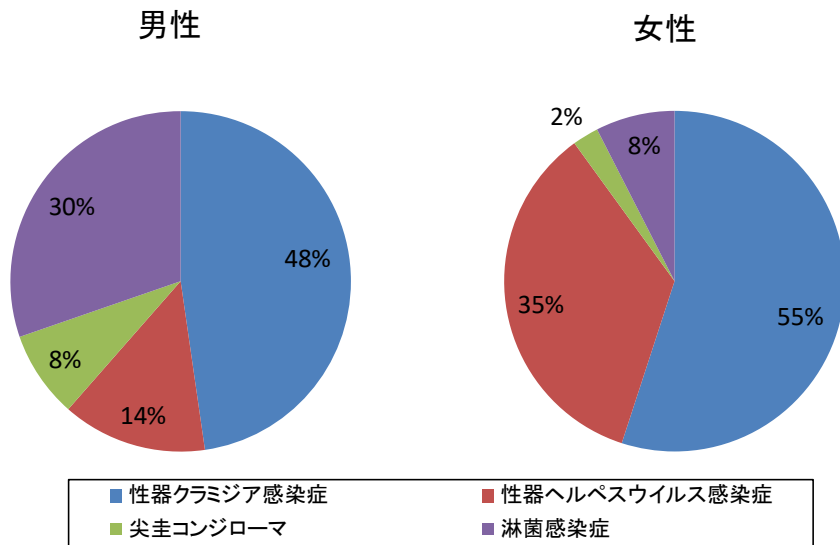


図2. 各STDの性別・年齢階級別の定点あたり報告数(2018年12月)

